

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。  
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。  
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。  
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. 77

エントリー学校名： 京都府京田辺市立三山木小学校

活動名： 主体性を育む授業研究

～コロナに負けない分散型授業研～

解決すべき課題：

- ・テキストや友達の意見と関連付けて考える力が弱く、深い学びを実現する中で思考力等を伸ばしたい。
- ・宿題など与えられた学習課題にしっかりと取り組む児童は多いが、読書や学習への関心や有用感が低く、学びに向かう力をどう育てていくかが課題になっている。
- ・上述の課題を克服するためには、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善が重要である。そのためには、1 時間の授業研究では限界があり、単元をどう改善するかの研究が必要になってくる。
- ・コロナ禍において、40 名以上の教員が同時に授業を参観すると「密」が避けられなくなる。大規模校において、どう感染防止対策を講じつつ授業研究を活性化するか。同時に若手の授業力を伸ばしていくか。

目標・方針： 国語科における単元構想シートの開発と実践、および新たな授業研究スタイルの開発

- ・単元構想シートを活用した教材研究を行うことで、すべての教員に単元を構想する力を付けていく。
- ・それによる授業実践を通して、「深い学び」を実現し、主体的に学びに向かう児童を育成する。
- ・研究授業を行う学年の教員が一つの単元の異なる授業を公開し、他の学年の教員は分散して授業を参観する。(参観する教員を 10 人程度にする) ジグソー学習の手法を活用し、事後研で子どもの学びを総合し、単元の構想を検証していくことにより、教員一人一人の主体的な学びを促していく。【資料 1】

活動内容：

- 1 学年を中心とした教材研究と単元構想シートの作成【資料 2】 ・ 学年全担任の授業公開計画
- 2 全体事前研の開催① ・ プチ事前研② (学年内で参観する授業を分担し、授業ごとに開催)
- 3 分散型授業研究会③ (各学年の教員が担当した授業を参観) ・ プチ事後研④ (その日に行う)
- 4 全体事後研の開催⑤⑥ (学年より「授業を振り返って」 → 学年ごとに検討⑤ → 全体で交流⑥)
- 5 単元構想シートの改善 (次年度へ活かす)

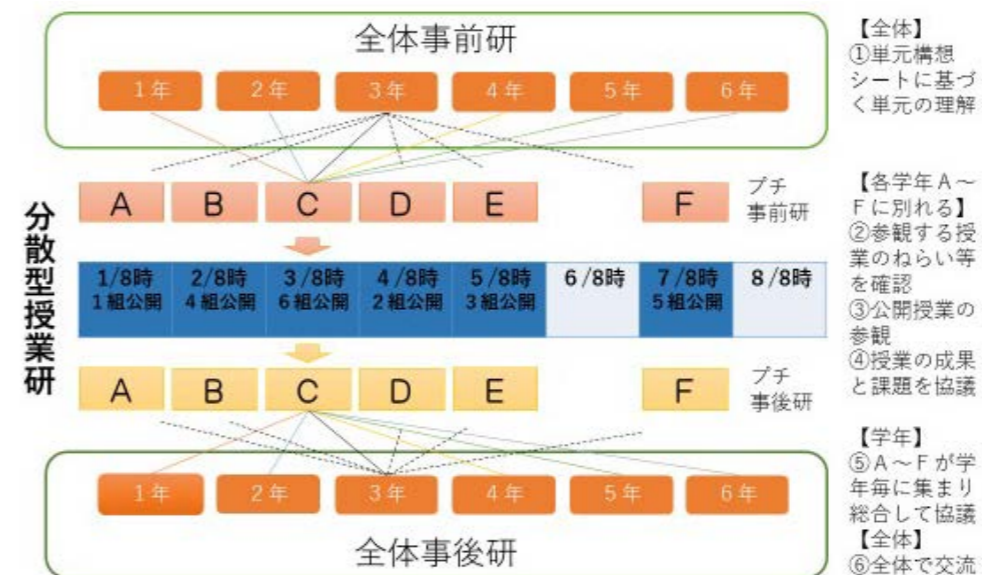
活動の成果：

- ・単元を通して「つきたい力」を育てていくという視点を持ち、単元や本時を構想することにより、各時間のねらいを焦点化し、軽重を付けて授業を展開できるようになってきた。その結果、話し合い活動にも余裕が生まれてきた。標準テスト等の検証はまだ行っていないが、主体的に学ぶ児童の姿が多く見られるようになった。
- ・全員が授業を行い、公開授業の参観も学年の代表として参加することで、教員一人一人の意識が高まり、教員にも主体的に学ぶ姿が多くみられる。若手教員も授業を構想する手法を身に付けつつある。

アピールポイント (アイデアや工夫)：

- ・教員の授業改善の意識が、1 時間の授業から単元全体へ転換できたこと。
- ・コロナ禍で、「密」を避けるために自粛しがちな授業研究会を、分散型にすることで大幅に活性化することができた。また、教室で参観する教員が少ないことで、子どももプレッシャーを感じることなく活動し、教員もグループの側で子どもの声をしっかり聴くことができた。【資料 3】

【資料 1】 分散型研究会の流れ



全体事前研



プチ事前研 (A～F)



【資料 2】 単元構想シート 4年生「世界にほころ和紙」

【資料 3】 公開授業 before after

(令和元年 1 月：教師約 40 名)



(令和 2 年 9 月：分散型授業研)

